

2025 年度（令和7年度）学校評価自己評価表

加茂中学校区	校番 85	福山市立加茂小学校
最終更新日 2025年（令和7年）9月19日		

I 福山市

ミッション
ビジョン 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、
日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容

- ・小中学校の連携、加茂・山野・広瀬での定期的な学習をお願いする。
- ・「地域について語れる」児童を育てるための学習を展開してほしい。また、地域の人材発掘も行う。
- ・地域と学校が日常的に連携を取れることは大切である。
- ・小中9年間を見通し、系統性・継続性のあるふるさと学習の内容を検討していく。

児童生徒の現状

- 1小1中という環境にあり、学習面・生活面において、つながりをつくりやすい。
- 問い合わせに対する自分の考え方を、文章にしていくことに課題がある。
- 友人ととの関わりや見方が固定化し、互いの新たな可能性や成長に気づきにくい。

育成する
資質・能力
めざす子ども像
(義務教育修了時の姿)中学校区として
統一した取組等

課題発見・解決力 コミュニケーション力 あきらめない心

学びを楽しむ・学びを活かす子ども
夢を語れる・自分のことを語れる子ども

- ①幼保小中連携
子ども・教職員の交流を通して、幼児期から小中学校までの学びをつなぐ。
「幼保小・小中・幼保中」連携した教育活動の実践
- ②地域とともにある学校
学校・家庭・地域が連携した教育活動の充実を図る。
地域素材を活用した教育活動の実践

III 自校

ミッション

- 自分のため、社会のために、仲間とともに、地域とともに、
未来をつくることができる、夢を実現する力を育てる学校

学校教育目標

ともに 学び合い 高め合う

現 状

- △児童生徒
○明るく、素直な児童生徒が多い。
○学習意欲のある児童が多く、自分のやりたいことに取り組む児童も多い。
△不登校傾向の児童が多い。
△学習面では、「基礎・基本」の定着や思考力・表現力が十分ではない。
△授業
○全国学テの結果分析・主体的な学びの推進のため「任せる、考える・読む・書く」授業を実践した。児童に何をさせるのか、授業で何を考え、何を読み、何を書くのかという視点での教材研究や授業観察を行い、教師間の対話が増えた。児童の「書く」意欲も増えている。
△条件に沿って「書く」ことに課題がある。
△言葉がもつ意味を理解していない。

育成する
資質・能力めざす
子ども像
内容等

課題発見・解決力

- 自分の身の回りを見つめて、課題を見出し、解決方法を考えることができる。
- 解決に向けて、自ら行動したり仲間と協働したりして取り組むことができる。
- 取り組みをふり返り、また考えたり、取り組んだりすることができる。

コミュニケーション力

- 様々な表現方法で、自分の考え方や思いを伝えることができる。
- 相手の考え方や思いを聞き、相手のことを尊重することができる。
- 自分で、みんなで、取り組む中で、新しいことや新しい価値を考えることができる。

あきらめない心

- 「やってみよう」とする意欲をもつ。
- 他に何か方法がないか考えることができる。
- 友達に声をかけたり、応援したりすることができる。
- 自分で決めたことを工夫改善しながら続けることができる。

研究
内容等

テーマ

学びを楽しみ、自ら表現する児童の育成

- 国語科・算数科・体育科・総合的な学習の時間・幼保小中連携を柱として
・主体的・対話的で深い学びのある授業づくり
・授業の本質をとらえた授業づくり

めざす授業の姿

- ① 児童が自ら問い合わせを立て、学習を深めたり、広げたりする授業
- ② 児童が自ら学び方を自己決定し、目的を持って学びに向かう授業
- ③ 友達との対話や協働的な体験を通して、課題解決を図る授業

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立加茂小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る 取組状況	加セス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	加セス 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
1	課題解決に向 けて取り組み、 自ら表現する 児童の育成	★	新 規 ・ 継 続	○付ける力を明確 にし、教科横断的 に学びをつくる。 ○幼保小中連携を 図り、授業改善に つなげる。	○ことばの力を育 てるために、相手 や目的意識をも って書く活動を 仕組む。 ○学年のつながり を意識し、カリキ ュラム作りに活 かす。	○文章構成や相手意 識を持ち、書くこと ができる。 85%以上 ○学期末テスト国・算 (思考・判断・表現) 到達率80%以上	○文章構成と読み 手を意識して、 書く。肯定的評 価74% ○学期末テスト (思判断表) 国78% 算67% ・目的をもち、指 定された条件に 沿って文章を書 くことが十分に できていない。 ・学期末テスト (知・技) 国78% 算77% 知識技能も習 得する必要が ある。	2	2	○学年で教材研究 や児童のノート を定期的に共有 し、PDCAサイ クルを効果的に 機能させる。 ○家庭学習や帯タ イムで指定され た条件で文章を 書く機会を増や す。 ○授業観察(学期 に2回)を通じて 改善案を見出 し、授業改善を 行う。 ○学力の状況と、 学習形態を見直 し、帯タイムに 音読の時間と読 解問題に全校で 取り組む。					
1	安心して楽し く過ごせる、学 べる環境づくり	★	新 規	○「あいさつ」「掃 除」「そろえる」に 取り組む中で、生 活基盤を向上さ せる。	○学級会や児童会、委 員会を通して子ど も主体の取組活動 にし、生活力のレベ ルアップを図る。	○自分たちの学級・ 学校生活をより よく変えること ができる。 80%以上	○学級や学校をよ くするために、 自分にできるこ とを1つでも行 動にうつすこと ができる肯定的 評価83.1%で あった。 ・数値は目標を達 成しているが、 実の姿は達成し ているとは言え ない。 ・学級、学校のた めに自ら考 えて行動する児童 を増やすための特 別活動を仕組む ことができた。	3	3	○児童が「あいさ つ」「そうじ」「そ ろえる」といっ た基本的な生活 習慣を継続して 実践するこ とで、自分たちの 学校をより良 くしようとす る意識を育て、特 別活動を通じて 主体的に行動す る力を養っていく ことを目指す。 ○共通認識をも つて、学級会 や代表委員会を 利用し、学校全 体で具体的な目 標を設定する。					

1	主体的に運動に取り組む力の向上	★ 新規	○運動に親しみをもち、進んで体を動かそうとする力の育成	○体育の学習において、運動量確保を図る。 ○授業、遊びから、学級レク等で様々な運動遊びを提示する。	○持続力・跳躍力が高まっている。 80%以上 ○運動が楽しい。 90%以上	○運動が楽しいと回答した児童は86.1%であった。 ・学校で統一したワークシート(課題のある運動に限定したもの)を活用し、継続的に持久力・跳躍力の向上を図っている。	3	3	○持久力・跳躍力向上に向けた運動例を全職員で共有し、授業の中で取り入れる。 ○体育委員会を中心に行き、跳躍力に関する運動を企画運営し、楽しみながら体力向上に努める。				
2	教職員が生き生きと働ける環境づくり	★ 継続	○自ら研究と修養に励む教職員集団を育成する。 ○時間と質を意識した業務を推進する。	○教職員の意欲を重視した取組や研修を実現する。 ○優先順位の見極め、見通しをもつた勤務時間の遂行。	○「仕事にやりがいを感じている教職員」90%以上 ○勤務時間外在校時間が、月45時間以内の教職員を90%以上にする。	○教職員アンケートにおいて、「やりがい」を感じる教職員は95%であった。 ○時間外在校時間が月45時間以内の教職員は、95%であった。 ・優先順位とタイムマネジメントを全学年で行うことで、仕事の質を上げ、時間の節約に繋がった。 ・若手の育成に課題が残った。	3	3	○自己課題の解決に向けて挑戦する風土を醸成するため、管理職・各主任主事が月1回以上若手対象の研修会を実施する。 ○ミドルリーダーを中心に、積極的にコミュニケーションを取り、悩みや相談をしやすい雰囲気を作っていく。				

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかつた。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかつた。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多くなった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかつた。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準
5	100%以上の達成度
4	80%以上100%未満の達成度
3	60%以上80%未満の達成度
2	40%以上60%未満の達成度
1	40%未満の達成度